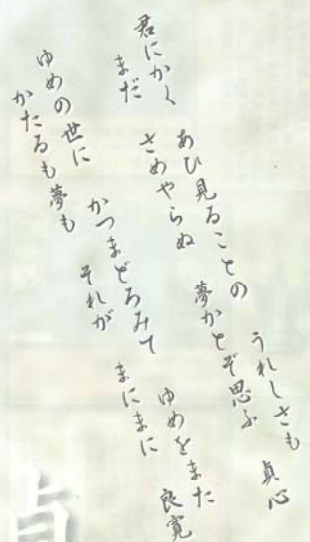


はちすば通り
良寛碑めぐり

良

寛





西暦	年号	事	項
七五八	宝龜	1	出雲朝の名主兼美賀、越屋山本家に生まれとて生れらる。幼名榮高。
七六五	明和	8	尼崎（山崎給所）。光岡寺（南無堂）の寺子屋に学ぶ。
七七〇	七		大森寺（佛堂）入門。
七七五	安永	13	寺傳襲の許め、豊前赤松中村寺（真玄親王）の寺に参拝す。
七八九	七九〇	22	仙仙が書けるに於て、岡山山、玉島（倉敷市）内通寺に赴く。岡山に於て修行寺の傳を受ける。
七九六	寛政	33	郷土（安永）の宮庭に在り。
七九七	八		國上（赤松市）境内内の五合庵に在り。
七八九	九	41	貞心尼生年。長岡澤十束村家二女で、幼名ますすいう。
八〇五	文化二	48	貞心庵に定住す。
八〇七	四	50	中山（出雲給所）の西園庵に在り。
八一四	二	57	冬は三神社に在り所（子庵）に在り。
八一六	文政三	63	貞心尼、足助町（赤松市）に移し、小出島（赤松市）沼津に住む（十七歳）。
八二〇	九	69	この年の子（子庵）定住。
八二六	文政三	69	貞心尼、離郷し、出家して柏崎（山崎市）に住む（二十歳）。
八三七	九	70	貞心尼、堀島（岡山市）の間歇堂に移り、秋に对面を果たす。
八三八	二一〇	71	貞心尼、佛堂（岡山市）の間の歇堂に移り、秋に对面を果たす。
八三三	天保一	74	貞心尼、佛堂（岡山市）の間の歇堂に移り、秋に对面を果たす。
八三五	四		正月六日遷化。正月八日葬式。
八三七	六		良寛堂を建立。
八八二	明治五		貞心尼、良寛堂（はちの寺）を落成。
八八二	明治五		二月十日、柏崎で貞心尼死去（七十五歳）。



良寛の里美術館

良寛とその愛弟子・貞心尼の書や唱歌を中心に、ゆかりの文人墨客の作品等を展示。建物は、良寛と貞心尼をイメージしてつくられた。



菊盛記念美術館

ロダンや高村光太郎、柳原義達など20世紀日本の代表的具象彫刻家の作品や伊東深木、長谷川利行などの絵画を展示。



もてなし家

170年前の古民家を移築して建てられた。大人気のガンジーストなどの特産品販売コーナーや良寛なすび・郷土料理だんご汁等の飲食



木村家・隆泉寺

良寛は、終の住処として豊かな晩年を木村家の小庵で過ごした。弟の由之、遍澄や貞心尼に看とられながら74年の生涯を閉じた。



和島地域の紹介

佐渡まで日本海が一望できる
和島オートキャンプ場

日本海を望む和島に
に位置するキャン
プ場。天気の良い
日は、丘の上から美
しい夕景が楽しめる。
海水浴・釣りなど
海のレジャーには
自然の宝庫。キャン
プやバーベキュー完
備。



春、深紅の梅の花が咲き乱れ、
梅の森(良寛歌碑)
こぼれ落ちる花びら(とうやん中野)
小さな森の中にある
熊野神社は、梅が周囲
を囲うように群生し
「梅の森」と呼ばれて
いる。良寛がここを訪
れ詠んだ歌碑が建っ
ている。



日蓮上人の高弟・日昭上人によって建立された日蓮宗の本山
妙法寺 みょうほうじ

日蓮宗の本山。鎌倉時代末期、徳治元年(1311)に日蓮上人の高弟老僧日昭上人が創立。鎌倉幕府(現在の横浜市戸区)の妙法寺が本元。平成18年に築暦700年の法喜が完成した。境内には七聖堂等があり鎌倉時代から徳川時代まで伝えられている。さらに日蓮宗本願地王のうちの二天王がまつられている。二門(表門)より、石段を上ると上と法華宗の総門(山門)があり、両門とも長閑な文化財となっている。



交通のご案内

〔鉄道・路線バス〕	〔車〕
●JR上越新幹線 東京駅から長岡駅下車 長岡駅発小島谷行路線 バス「島崎」下車 ●JR越後線 小島谷駅下車徒歩10分 (島崎橋まで)	●北陸自動車道 西山ICより20分 ●北陸自動車道 中之島見附ICより20分 長岡北ICより20分

●お問合せ先 長岡市和島支所産業建設課
長岡市小島谷343番地4
TEL 0258-74-3114
URL <http://www.city.nagaoka.niigata.jp>

2022年11月改訂

はちすば通り

く良寛と貞心尼出逢いの地く

人々を賑やかな日々を送るに身を寄せ、足踏け6年間の地味な生活を晩年島崎の身へ寄せ、自ら厳しく律己、決して名利に走らず修行をし続けてきた良寛が生涯で唯「鳥」を許したといってもいいだろう。貞之尼と出逢ったのがこの地・鳥崎であった。

貞之は74才で遷化しますが二人の交流が続く。数多くの「相聞歌集」が残されています。貞之尼は良寛が亡くなった後、その相聞歌集を集めてて書き残しています。その歌は『蓮の露』として、現在までも人の脚愛望の美しさが伝えられています。

平成元年、二子を訪れる人たちに当時の良寛・貞之の清らかな交わり一座を演じてもらったというから、木村家から良寛の里での通りは「はちきは通り」と名づけたそうです。貞之尼の上で読める訓讀は一点の濁りもない清楚なものです。「はちかは通り」を歩くときの心が清らかになり、良寛と貞之のふれあうことがとぎとぎ思ひます。

この里には、良寛が晩年に過こした木村家、木村家の菩提寺である、木村家の墓所にある良寛の墓と弟・由緒の墓子（左）の墓があります。

場所：島崎 島崎横東畔
建碑：昭和49年12月
筆者：沢寛

庚寅書

庚寅書

秋鹿が文政9年（1826）10月、奥崎の木材町番頭の康貞に身を寄せたのは69歳の時だった。里人に押郎と印がけ「良寛さん」と親しまれ、弟由之、法弟通運、貞之尼などとの往来もあつて、かな十年余りを送つて天保2年（1831）正月、日大往生をとげられた。

右衛門利藏家の裏庭の庵室へ移ふことになった。是ほどの広さで中央に炉がありかぎ竹がするさねのある部屋で薪も飲水もすぐ側にある簡素なものであった。こゝが老後の居間であり、寝室・書斎・斎でもあった。弟由之、退菴、貞徳などもこゝに語りおつたのであつた。

良寛が亡くなって2年後の天保4（1833）年3月に建てられた。建禮寺は山田太郎兵衛、富取武左衛門、斉藤伊右衛門、堀田正貞等で正面内に「良寛禅师墓」とあり副側に良寛自作の僧伽絵と施頭歌一首が記されている。

良寛神師この地に遷化されてより道喜の堂
年をわけても深し。み事は境内に存してその靈にゆ
づめられども、み事は世に留まらずして面影をし
のぎに由なし、村民ここに銅像の建立をはかる。
衆人これに隨喜して奇蹟は全国に及び、尊像わ
れらに向つてより立つが如く道喜密哉その風神を
云々。

場所：鳥崎 陸奥寺参道左側
 建碑：明治40年1月
 筆者：長寛

密かに我

場所：鳥崎 宇奈呂神社社道左側
建碑：平成12年3月
筆者：良寛

出田の宮詩歌碑（祝文）
 宜前芭蕉樹 亭々として露を払って涼し 歌を
 み又歌を賦し 終日之の傍らに座す
 七月十六日

冷々林を出づるの風
倒るれば 倒るるままの 庭の草
よみたてて 分きてそれとは
なけれども 永久に尽きせぬ
ものにぞおける

この耐えがたい葛し曇せをもとに行つて癒け
か、私は出田の宮の境内でしみじみと涼しさを
いっている。木々に留まつている蝶は耳を震すほ
しい。林を吹き抜ける風は清らから涼し
良寛さまは涼を求めるところとして出田の宮を好
らしく、この詩をその気持ちでうかがわれる

場所：島崎 妙徳寺境内
建碑：昭和35年の8月

1

A large, dark, rectangular stone monument stands on a base of smaller stones in a park-like setting. The monument is dark and has a rough, textured surface. It is surrounded by green grass and trees in the background.

場所：美術館展示室裏廊
建構：平成2年
担当：奥野

場所：島崎 妙徳寺境内
 建碑：平成20年6月
 筆者：民衆

- 一、さいごしうは
- 一、食ひものの
- 一、読み書き油
- 一、はき掃除す
- 一、ものにさか
- 一、上を歌い下
- 一、けたものに
- 一、げらげら笑
- 一、り無狀口立
- 一、よその困く
- 一、右のくたり
- 一、おかのど

よその國くま
右のくたり葉々
おかのどの

[illegible]

場所：真術館入口前
建機：平成8年11月
筆者：三島 村上正一

場所：歴史民俗資料館
 建號：平成3年巻
 筆者：江川 蒼竹

編者：江川

場所：歴史民俗資料館
 竣工：平成3年
 筆者：長寛

場所：歴史
経緯：平成
筆者：良寛

場所：歴史民俗資料館本館
建碑：平成3年
筆者：佐賀

場所：歴史園
尾碑：平成3
筆者：佐賀

場所：歴史民俗資料館左
建設：平成9年5月
筆者：民寛

編者：吳寬

場所：歴史民俗資料館内
建碑：平成3年
筆者：民衆

場所：歴代
建構：平家
筆者：民

境内、奥宮へ赴く山登りの入り口

建碑：平成3年4月
筆者：柏崎市 白倉南蔵

建譯：平
筆者：柏

場所：筑紫の里 - 和らぎ
 建設：平成 14 年
 筆者：三原市 国小町

場所：筑波大学
読者：中
筆者：三